

「VISION 2032」に向けて

平素より当会の活動にご支援を賜り篤く御礼申し上げます。

東京都ビジョン戦略は2030・2040年に向けて都市部の緑を次々と創出し水辺の豊かさを求めかつての江戸が水と緑の美しさが溢れる世界に誇れる東京を目指そうとしています。玉川上水から外濠への通水とお堀の水質改善、日本橋の首都高の地下化及び水辺を活かしたまちづくり等江戸城跡を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。



一方、再開発による神宮の森1000本の木の伐採は、SDGs・自然保護などの危惧から市民の反対運動が高まっています。

また、歴史遺産・日本最古の鉄道高輪築堤保全を求めるヘリテージアラート(危機遺産警告)がユネスコの諮問機関であるNGOイコモスや日本考古学会から出されています。

このような環境変化の下、特集として「VISION 2032に寄せて」と題し、有識者の皆様のインタビュー及び執筆を戴いております。是非ご覧ください。

さて、日本最大の城郭都市江戸城江戸城総構え(全容)の完成は、1636年江戸城外堀の完成によるといわれ、それから400年を迎える2036年を目指し、既に千代田区・港区・新宿区の3区により「史跡江戸城外堀の保存管理計画」が策定されています。これは「単に外堀だけではなく江戸城跡との一体性を高めつつ石垣、土塁、城門など見附で守られた大城郭の一画としての復元を目指し、歴史的背景と個性ある地域の歴史的環境を保全する計画とし歴史的視点から都市再生を図る契機とすべくこれらの目標達成を目指し、将来的には江戸城跡との一体性をより高め巨大城郭としての江戸城復元へとつなげていきたい。」としています。

VISION 2032・提言書策定の背景は、財団設立3周年を記念し、江戸東京歴史文化ルネッサンス調査研究委員会・報告書の策定に伴いこれまでの基本計画や運動を再検証して一連の集大成を行ったものです。2022年度は準備期間とし10年計画で取り組みを推進します。 *VISION 2032 (<https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/vision2032.pdf>)

本「提言」は、広く社会一般に普及・啓発・提言活動を推進すると共に、東京都知事、千代田区長をはじめとする関連行政、関係者及び関係機関等に「提言」を進めてまいります。この機会を通し多くの皆様からのご意見や支ご援ご協力を戴きますようお願い申し上げます。

2022年(令和4年)5月好日

理事長 小竹 直隆